



「もう少し」「あ、止まった!」「あー、行っちゃったー」……先生の指に止まりそうで止まらないトンボに歓声を上げる子どもたち。撮影:豊田直之

編集長が行く 源流編 Part2

大岡川自転車探訪

昨春、源流域に笑い声をひびかせていた園児たち
『宝島幼稚園』秋の源流域遠足に同行した
子どもたちと見る源流域は、どんなだろう?
一緒に行くと、どんなことが起こるだろう?

探検その1

源流域で出会った園児たちと一緒に小さな冒険!

「さあ、お弁当の時間まで遊んでいいよ!」先生たちの声で、背負っていた大きなリュックを下ろす園児たち。

花を摘んで小さなブーケを作る子、木の枝に枯葉をさして焼き鳥屋さんを始める子、樹木になりきって、指にトンボが止まるのを待つ子、虫を探す子、鬼ごっこする子……。子どもたちは、砂、土、石、木

の実、枝、草花、樹、風……。地球に存在する万物で、夢中になって遊ぶ。秋の源流域で、冷たくなってきた風などものともせず、年少さんから年長さんまで、上着を脱いで元気いっぱい走り回る。

そして、各々のお弁当を広げ、ワイワイいただいた後は、再び大きなリュックを背負い、2列になって、山道をひたすら歩く。

途中、小川で沢蟹を見つけ、草むらでバッタを見つけ、巨大なクモの巣を発見し、おもしろい形の葉っぱや石、ドングリ、それからクジャクの形の雲を見上げ……その度に歓声が上がり盛り

上がる。一見単調な山道も、子どもたちにとっては、発見の連続だった。

匂い、感触、音、色、温度、色んな感覚で季節を感じてきた子どもたちは、表現力豊かでコミュニケーション能力にたけている。

それにしても、元気にもくもくと、よく歩く。『宝島幼稚園』の卒園遠足は、円海山から、大岡川とは反対のコースを下りて、鎌倉の由比ヶ浜までを歩くのだという。

大人でも大変そうな距離だが、普段からこうして鍛えられている園児たち。毎年全員が歩ききるそうだ。

探検その2

横浜港とは反対側の由比ヶ浜を目指して『横浜市最高峰』から『海拔0(ゼロ)』までの一日探検ハイク!

翌月、編集部員で、『宝島幼稚園』卒園遠足コースとはやや別ルートではあるが、円海山から由比ヶ浜へのハイクを試みた。



今にも待が歩いて来そうな鎌倉街道。野生のタヌキに出会う。撮影:豊田直之

自転車で港南台駅を出発して、瀬上市民の森、氷取沢の「いっしんどう広場」から横浜で2番目に高い山、円海山(153.3m)を目指す。横

大岡川に、暮らす、働く、学ぶ、遊ぶ、人

宝島幼稚園 園長・吉田育巨(よしだいくお)先生

元気な園児たちと、顔がいっぱい描かれた園バスに一目惚れして、追いかけてみた『宝島幼稚園』。

大岡川流域近く、港南台にある創立40年の幼稚園だった。

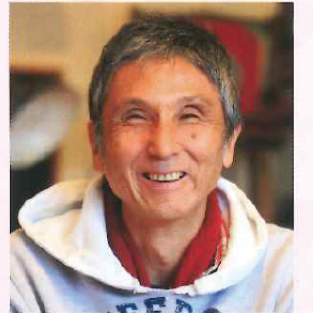
園長は、吉田育巨先生。大岡川流域に、毎日のように散歩に行かれるそうだ。『宝島』というネーミングから、船長さんのような方を想像していたが、意外にも仙人のような佇まいで……電話をして突然訪問した記者たちを、快く案内してくださった。

円柱型の園舎は、一階が吹き抜けのホールで、その壁に沿ってらせん状のスロープがある。スロープに向かって大きく開いた教室。潜水艦さながらの渡り廊下。そして、広い園庭には、小川、ツリーハウス、砂場、アスレチック……次から次へと想像力を掻き立てられる遊び場が連なり、行き止まりというものが無い。

落ちたりしないか、怪我をしないか……というのが今どきの大人の目線だが、園長先生は、小さな怪我の経験は必要なのとおっしゃる。

確かに、子どもたちにとって、これほどワクワクする遊び場はない。小さな怪我なんてへっちゃらだろう。そういえば、昔の子どもは一年中、ひざ小僧にカサブタがあつたものだ。

『縦割り』中心のクラス分け編成もユニークで、週5日間のうち3日間は『縦割り』で、異年齢の子どもたちが助け合って活動する。1日は『横割り』、もう1日は『フリーデー』と呼ばれ、子どもたちが自由にクラスを選び、好きな遊びをする。



子どもたちには、遊びを通して、自らの身体で人間関係を学んで欲しい。撮影:豊田直之

『フリーデー』の日は、先生方が「サッカーをします」とか「絵を描いて工作します」と、子どもたちの前でプレゼンテーションをし、子どもたちが各々選択をする。なんと、子どもたちが自らプレゼンテーションを行うこともあるそうだ。

『宝島幼稚園』の子ども像は、自由であること、人に優しいこと、そして、自然と友だちであること。海へ山へと園外保育も多く行う、夢のような幼稚園で、園バスに一目惚れして大正解、というか期待以上で、記者が今、子どもだったなら……とさえ思った。

園長先生は、テストのための勉強ではなく、自らが楽しく幸せに生きるための勉強ができる場所を作りたいと、夢と冒険とファンタジーの『宝島幼稚園』を作ったそうだ。

『カエルの家』と呼ばれるフリースペースで色々なお話を聞かせていたが、トンネルから顔を覗かせる子どもたちを「入っていいよ」と、友だちのように迎える園長先生。「次は、こんな秘密基地を作ってみたいですよ」と、新たな設計図も見せてくださった。園長先生にも行き止まりというものが無い。



子供たちの動線が全てループ状になる、開放的なデザイン。撮影:豊田直之

学校法人イルカ学園 宝島幼稚園
横浜市港南区港南台1-43-34
http://tkj.boy.jp



海へと続く鎌倉の街を一望できる、天園峠からの絶景。撮影:豊田直之

浜市域は、ゆっくり走れば自転車での走行が可能だ。

そして、横浜最高峰! 大丸山(156.9m)の広く開けた山頂でお弁当をいただく。八景島の入江が目の前の絶景がごちそうだ。

そして、ここからは、大岡川の流れを背にして進む。

横浜港への山道とは趣きの異なる、うっそうとした鎌倉街道の尾根道を、坂本龍馬も土方歳三もここを歩いたに違いない、などと幕末の時代に思いを馳せながら歩く。

天園峠の休憩所辺りからは、観光客も増え、賑やかに瑞泉寺を目指す。鎌倉駅を経て、海拔0(ゼロ)の夕日できらめく由比ヶ浜がゴール地点。

13kmあまりの道のり。ダイナミックな渓谷も滝も無いが、静かな水の流れとともに山を下り『森と水』を実感した冒険となった。

この、森と水をめぐる冒険。今年にはバージョンアップして『神奈川海拔0(ゼロ)to0(ゼロ)』、つまり、横浜港から大丸山を経て由比ヶ浜までのハイクを計画 중이다。



大岡川源流のある円海山へ折りたたみ式自転車で挑戦。撮影:豊田直之

birdy classic color:スコッチブライト
サイズ(折りたたみ時):77cm(W)×66cm(H)×38cm(D) 重量:11.0kg
GREEN CYCLE STATION
http://www.gcs-yokohama.com

昭和27年創業
共栄商事不動産
http://www.kamioooka.jp

【本店】横浜市港南区上大岡西1-19-4
Tel 045-842-0054/Fax 045-846-3701

【駅前支店】横浜市港南区上大岡西1-15-1 camio1F
Tel 045-842-0052/Fax 045-846-3702

【大久保支店】横浜市港南区大久保1-11-6
Tel 045-842-0058/Fax 045-842-2206

秋山眼科医院
akiyama eye clinic
http://www.hekaton-cheir.jp/akiyama-eyec clinic/

横浜市中央区尾上町3-28 横浜国際ビル4階(受付) TEL:045-641-9361

眼科 【月~金】10:00~13:00 15:00~18:00 【土曜】10:00~13:00
耳鼻咽喉科 【火・水】10:00~13:00 15:00~18:00 【月・木・金】10:00~13:00

まごころ・信頼・サービスをお届けします。

株式会社 横濱屋

- 業務用酒類卸
- スーパーマーケット
- お酒スーパー

●本社 横浜市南区宮元町4-93 TEL 045-712-2670
●業務用酒類卸(東神奈川営業所)
横浜市神奈川区千若町2-1 TEL 045-440-6440